HOKKAIDO UNIVERSITY

| | |
|---|---|
| Title | 『五国対照兵語字書』の研究［論文内容及び審査の要旨］ |
| Author(s) | 胡, 琪 |
| Degree Grantor | 北海道大学 |
| Degree Name | 博士(文学) |
| Dissertation Number | 甲第11592号 |
| Issue Date | 2014-12-25 |
| Doc URL | https://hdl.handle.net/2115/57730 |
| Rights(URL) | https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/ |
| Type | doctoral thesis |
| File Information | Qi_Hu_review.pdf, 審査の要旨 |

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

# 学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称　博士（文学）　氏名　胡　琪

審査委員　主査　教授　池田　証壽
副査　教授　加藤　重広
副査　准教授　松江　崇

## 学位論文題名

『五国対照兵語字書』の研究

明治時代は、外国から新しい文化や事物が流入し、言語の面でも激しい変化を遂げた時代である。その変化は、音韻・文法より語彙・文体に顕著であった。明治時代における西洋文化の受容は、翻訳を通して行われたが、その過程で多量の訳語（新漢語）が創出され、また言文一致体が誕生したことからもその点は理解できよう。明治時代の言語資料は、さまざまな資料が発掘されており、小説類、外国資料、さらには翻訳資料や速記資料の発掘・紹介に及んでいる。それらに基づく研究は、文法・文体が先行し、表記法・音韻・語彙は遅れ気味であった。明治時代に創出された訳語（新漢語）は膨大であり、哲学用語、医学用語、地理学用語など、特定分野の語彙研究が進められたものの、未着手の分野が多い。本論文が研究の対象とする軍事分野の語彙研究は皆無に近い状況である。本論文が取り上げた『五国対照兵語字書』（参謀本部、1881 年）は、日本最初の軍事用語対訳辞書とされるものであって、後続の軍事用語対訳辞書に影響を与えたとされながら、従来、十分な調査・分析がなされていなかったので、その書誌学的文献学的研究を行うとともに、語彙論の観点から研究を進めたものである。

『五国』は、日本最初の軍事用語対訳辞書であり、従来から、語彙研究資料としても注意されており、50 万項目を収録する『日本国語大辞典』（第二版）には約 650 項目に、その用例が収録されている。しかしながら、その編纂成立の過程、翻訳の方法の問題をはじめとして、収録項目数や収録語彙の特徴などの基礎的研究は手付かずであった。その理由は、軍事分野というこれまでの語彙研究でほとんど取り上げられなかった分野の資料であったこと、『五国対照兵語字書』が稀覯本であったことが関係しよう。本論文の申請者は北海道大学所蔵の『五国対照兵語字書』に基づいて研究を行うことが出来た。これは幸運であったとも言えるが、その成立に直接関連する翻訳底本（ランドルトの対訳辞書のフランス語編）、準備期の稿本（池田手稿）、兵語辞書編輯掛任命を記載する「陸軍省大日記」は申請者が独自に発掘・紹介した資料であり、その発見の功績はこの論文の著者に帰するものである。さらに、『五国対照兵語字書』のフランス語と日本語訳語部分のすべてデータベース化し、収録項目が 13,304 件であることを明らかにした点、「服務」を例にした翻訳時における造語の可能性の指摘、『日本国語大辞典』（第二版）に未収録の初出例が多数あることを指摘した点も特筆される成果である。フランス語と対訳の日本語、さらに対訳のドイツ語・英語・オランダ語との関係から翻訳の特徴を分析した点は、『五国対照兵語字書』の基本的特徴を押さえたものである。

本論文は、軍事用語という新しい分野の語彙資料とそれに基づく語彙研究、さらには日中語彙交流史研究を大きく前進させた研究成果と評価できるものである。辞書の用例記述や語誌記述を精密化するのに重要な資料を提供するものと期待される。

ただし、『五国対照兵語字書』の序文・凡例は漢文で書かれており、なお慎重な解読・解釈が要求される部分が残った。また本文はフランス語・ドイツ語・英語・オランダ語と日本語とを対訳したものであり、加えて軍事に関わるさまざまな事物の名称の解説は時に難解である。原書に添えられた図版は、かなり不正確であって、『五国対照兵語字書』の翻訳者がどれほどの理解であったかに関する検討も必要となる。以上の点は審査の過程で指摘された問題点である。これらは、本論文の申請者本人も十分に理解しており、今後の研究の進展によって解決が可能な問題と言えよう。

以上の審査結果から、本審査委員会は、全員一致で本学位申請論文が博士（文学）の学位を授与されるのにふさわしいものであると判断した。